

# 令和元年度 基本評価調書

施策名	滞在交流型観光地づくりの推進	所管部局	経済部	作成責任者	観光振興監 三瓶 徹	施策コード	05 — 04
		照会先	観光局観光政策G (内線26-564)	関係課	観光局		

## Plan (目標管理型行政運営システム実施要領 別紙様式1)

### 【総合計画等の位置づけ】

政策体系	大項目(分野)		中項目(政策の柱)		小項目(政策の方向性)		総合計画の指標	
	2	経済・産業	(6)	多彩な観光資源を活かした世界が憧れる観光立国北海道の更なる推進	A	食や自然環境など豊富な資源を活かした滞在交流型の観光地づくり	観光消費額	
北海道創生総合戦略	A3311,A3312,A3313,A3331		北海道強靱化計画	B1731	知事公約	C0121、C0122、C0124、C0125、C0126、C0127、C0128、C0130、C0131、C0146		
特定分野別計画等	北海道観光のくにづくり行動計画							

### 1 目標等の設定

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本道の観光産業のGDPは、他産業と比較すると、金融・保険業や農業をしのぐ規模となり、観光消費に伴う経済波及効果は、観光関連の事業者だけではなく、農林水産業や製造業など幅広い産業に及ぶなど裾野が広いことから、道内経済を活性化していくためには、観光客の拡大を地域のビジネスチャンスとしてとらえ、「観光で稼ぐ」という意識を幅広く浸透させ、観光事業者のみならず農林水産業や商工業など、地域の多様な関係者の参画を促進していく必要がある。</li> <li>・観光客が特定の時期や地域に偏る傾向があることから、地域ならではの観光資源の発掘・磨き上げや地域の様々な関係者を巻き込んだ一体的な観光地づくりを進めるとともに、急増する外国人来道者に対応するための多言語に対応できる人材など観光業を支える人材の確保・定着ならびに情報案内機能の充実や受入側のホスピタリティの向上等に取り組む必要がある。また、周遊観光の促進など道内全域への観光客の誘導や年間を通じた安定的な誘客を図っていくため、地域の様々な関係者を巻き込んだ一体的な観光地づくりを進めるほか、滞在型観光の促進のための広域観光ルートの形成・促進や、道央圏から他の圏域への誘客促進に向けた空港や鉄道の駅などの交通拠点と観光地との間を結びつける二次交通の整備などに取り組む必要がある。</li> <li>・これまで本道観光を支えてきたかけがえのない自然環境の保全に努めながら、安全・安心に配慮した受入環境を整え、北海道の魅力ある観光資源を活用した滞在型観光地づくりを進めることにより、「世界が憧れる観光立国北海道」をめざしていく。</li> </ul>	施策目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の多様な関係者の参画により観光客の増加を観光消費の拡大につなげ、その消費を地域で循環させることで、さらに新たな取組へとつなげ、魅力ある「観光地づくり」を進めることが重要。この取組により、地域の「稼ぐ観光」を実現するとともに、地域創生や観光のリーディング産業化を目指し、観光施策による効果を地域経済の活性化に着実に繋げていく。</li> <li>・地域の観光資源の発掘・磨き上げによる新たな魅力ある観光商品づくりはもとより、新たなツーリズムや一年を通じて地域に滞在しながら楽しむことができる観光メニューづくり等に取り組み、自然環境など地域の資源を活かした滞在交流型の観光地づくりを推進する。</li> </ul> <p>(北海道観光のくにづくり行動計画より)</p>
-------	--	------	--

施策の推進体制 (役割・取組等)	政策体系	役割等	政策体系	役割等	施策の予算額	
	2(6)A	[道]	・地域の資源や特性からテーマ性などを見だし、戦略的なプランのもとに観光地づくりを進めていく。	2(6)A	[市町村]	H29
[民間]		・観光客のニーズに応えられる質の高いサービスの提供や交通ネットワークの利便性向上など、旅行形態の変化や観光ニーズの多様化に配慮して、事業活動を広げる。				
[札幌市・道]		・道内の交通拠点である札幌駅における観光案内所の運営を共同で行うとともに、北海道観光の中核都市として引き続き連携しながら取り組んでいく。	[民間]		H30	745,921
2(6)A				・一次産業をはじめ、地域の他産業との連携による地元食材の提供や地域特産品の開発といった、観光にかかわる地産地消の推進に取り組む。	R1	827,060

今年度の取組	政策体系	今年度の取組	政策体系	今年度の取組
	2(6)A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役となる「日本版DMO」の形成を促進するほか、広域連携DMOに認定されている北海道観光振興機構のマーケティング力強化を図る。(公約番号130)</li> <li>・アドベンチャートラベルやアウトドア活動、体験型観光の振興を図るため、「アドベンチャートラベルワールドサミット2021」誘致に向けた取組や、ガイド育成カリキュラムの策定、北海道アウトドア資格制度の運営、道内外に向けた情報発信等を行う。(公約番号122)</li> <li>・2020東京オリパラ大会にあわせた民族共生象徴空間(愛称:ウポポイ)の一般公開に向け、道内外の気運醸成を図るとともに、国内外から誘客促進を図る。</li> <li>・地域が行う新たな商品づくり等の取組を支援し、地域経済の活性化を図る。(公約番号127、131)</li> <li>・統合型リゾート(IR)について、道民の理解を促進するための普及活動等を実施する。(公約番号128)</li> </ul>	2(6)A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来道観光客の夜間消費の拡大を図るための意識調査やセミナー、長期滞在化を図るための商品開発・販売や滞在モデルプランの策定・検証、二次交通の利便性の向上、サイクルーツリズムを推進するための輸送方法の検証や周遊拠点の整備支援等、多様化するニーズに対応するための各種取組を実施。(公約番号125、146)</li> <li>・住宅宿泊事業法の適正な執行、ふれあい民泊の推進による滞在型観光の推進に取り組む。</li> <li>・札幌市との連携による「食と観光」情報館の運営や、新千歳空港国際線ターミナル内に設置した国際観光案内所の運営を行う。</li> <li>・誰もが安全・安心に道内旅行を楽しめる環境を整備する。(公約番号124、126)</li> <li>・人手不足が課題となっている観光産業の人材確保や、従業員等の人材育成を図り、受入体制を整備する。</li> <li>・自然体験を核とした体験型観光の受入体制を整備するとともに、北海道のブランド力向上を図る(公約番号121)</li> </ul>

## 前年度付加意見への対応状況(平成31年3月末時点)

### <意見区分； 施策目標の達成状況・事務事業の有効性>

	事務事業整理番号	事務事業名	前年度付加意見	各部局の対応(平成31年3月末時点)
施策 事務事業	0304	地域イベントに関する事務	北海道創生総合戦略「食や観光をはじめとする力強い産業と雇用の場をつくる」の推進に必要な指標である「宿泊客延べ数」の目標達成に向け、事業の見直しや、民間との連携を図るなど、実効性のある取組を検討すること。	宿泊客延べ数を伸ばすためには、地域の観光資源の発掘・磨き上げによる新たな魅力ある観光商品づくりや、新たなツーリズムの開発、一年を通じて来訪を促すMICEの開催など、観光客の長期滞在化を促進する必要がある、地域の取組を支援する広域観光推進事業と地域活性化促進事業を統合したことに加え、北海道MICE誘致促進事業とコンベンション誘致促進事業を統合し、それぞれの事業を北海道観光振興機構と一体となって進めることにより、民間ならではの専門性や機動性を生かしながら事業効果を高めていく。 (統合後の事業名:地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業、MICE誘致推進事業)
	0309	地域観光活性化促進事業		
	0310	広域観光推進事業		
	0318	北海道MICE誘致促進事業		

### <事務事業評価 意見区分； 前年度評価結果への対応など>

	事務事業整理番号	事務事業名	前年度付加意見	各部局の対応(平成31年3月末時点)
事務事業				

# Do & Check 施策評価

## 1-2 取組の結果

### (1) 取組の実績と成果

政策体系	実績と成果等	関連する計画等			備考
		北海道 創生総合戦略	北海道 強靱化計画	知事公約	
2(6)A	地域の魅力ある観光資源を活用した旅行商品開発や受入体制整備の取組を支援し、14地域で地域資源を活用した新たな商品づくりが、11地域で受入体制整備が行われた。			C0127 C0131	
2(6)A	国際観光周遊ルートの取組を支援し、地域の魅力ある観光資源を活用したルート形成の取組が14地域で行われた。			C0146	
2(6)A	観光地経営の視点に立った観光地域づくりの舵取り役としての役割を果たす「日本版DMO」の道内における形成を促進するため、道内各地におけるDMOの確立に向けた取組を支援するとともに、広域連携DMOの登録を受けた観光振興機構のマーケティング力の強化を図るため、ホームページのデータ分析等を実施した。			C0130	
2(6)A	民泊を活用した誘客拡大と民泊による近隣住民とのトラブルの解消を目的に公布された「住宅宿泊事業法」を適正に執行するための体制整備を図り、法令に基づく適正な指導に努め、道民へ丁寧な情報提供を行うとともに、地域や民間事業者と連携し、自然や食などを組み合わせた北海道らしい民泊を促進している。				
2(6)A	札幌市と共同で、札幌駅西コンコースの「北海道さっぽろ「食と観光」の情報館」内にある「北海道さっぽろ観光案内所」を運営し、来道観光客の相談対応を行っている。(案内所利用者数:1,636,847名(平成30年度実績))				
2(6)A	新千歳空港に国際観光案内所を設置し、多言語による旅行相談や観光情報の提供を実施している。(案内所利用者数:100,219名(平成30年度実績)) ・カウンターにおける問合せ対応 ・観光パンフレット等による対応				
2(6)A	バス運転手確保のための研修ツアーを実施し、事業を通じて6名のバス運転手の新規雇用が実現するなど一定の効果があつた。また、観光業への理解促進等が図られるなど一定の効果があつた。観光合同フェアを開催し、74名の参加があり、観光業への理解促進等が図られるなど一定の効果があつた。				
2(6)A	自然体験を核とした体験型観光の受入体制を整備するとともに、体験型観光商談会の開催による商品化を促進するなど、アウトドアの好適地である北海道ブランド力向上を図り、滞在型観光を推進する。			C0121	
2(6)A	「アドベンチャートラベル・ワールドサミット2021」の誘致に向けて、トップセールスや国内関係者への協力依頼、ヒアリング等を実施する。(アドベンチャートラベルワールドサミット誘致促進事業費)			C0122	

2(6)A	公益社団法人北海道観光振興機構を通じて市町村、観光協会を補助対象とした多言語案内板の設置や人材育成などの受入体制整備事業等への支援を実施。(北海道観光誘致推進事業費)			C0124	
2(6)A	サイクリング周遊拠点における施設の整備不足、情報の不足、公共交通機関等への自転車の持ち込みの手間や、イベントでのスタッフ不足など様々な課題に対応した受入体制の整備に向けサイクルツアーの検証やモデル地区における拠点整備等を実施。(サイクルツーリズム推進事業費)			C0125	
2(6)A	ハンディキャップのある方々が道内を快適に旅行できるバリアフリー観光を推進するための指針づくりに向けた調査の実施や、観光関係従事者などを対象としたバリアフリー観光講座を開催し、バリアフリー観光の推進を図った。			C0126	
2(6)A	統合型リゾート(IR)について、道民の理解を促進するため、普及啓発冊子の配布やIR理解促進セミナーなどの普及活動等を実施する。(IR(統合型リゾート)に関する道民理解促進費)			C0128	

(2) その他の取組の成果等

国等要望・提案状況	<p>急増する外国人観光客などの受入体制整備のため、人手不足や人材の定着が課題となっているバス運転者や宿泊業従事者など観光産業に従事する者の育成・確保の取組に対する支援制度の拡充を国に要望を行った。(令和元年7月)</p> <p>外国人観光客が集中しているゴールデンルートから地方への分散化を目的に認定された道内2つの広域観光周遊ルートの形成を促進し、国の目指す「観光先進国」化に貢献するため、財政的支援の拡充を図るよう国に要望を行った。(令和元年7月)</p> <p>観光地づくりを担う主体としての日本版DMOの形成・確立を促進するため、各種データの収集・分析、戦略策定、専門人材の確保など、日本版DMO候補法人に対する財政支援制度を創設するよう国に要望を行った。(令和元年7月)</p>	施策に関する道民ニーズ	<p>北海道観光の中核的な組織である北海道観光振興機構から、人材育成・サービス向上、観光商品開発、基盤整備、広報・プロモーションなどを要望事業として取りまとめた「北海道観光に関する平成31年度事業予算の要望」を受け、平成31年度予算編成の中で事業の具体化に努めた。(平成30年12月)</p>
-----------	---	-------------	--

Plan (目標管理型行政運営システム実施要領 別紙様式1) Do & Check 施策評価

2 連携の状況

2-2 連携の取組状況

(1) 施策間・部局間の連携

(1) 施策間・部局間の連携

政策体系	連携内容	連携先		取組の実績と成果
		施策コード	関係部・関係課	
2(6)A	新幹線や海外との航路・航空路の拡充により期待される国内外からの誘客を一層促進するため、新千歳空港の国際拠点空港化の促進をはじめ、鉄道、航空路、航路といった基幹的な交通ネットワークや交通基盤の充実を図る。 クルーズ客船の寄港誘致に向け、庁内関係部局との連携により取組を推進する。	0204	総合政策部交通政策局・航空局	「北海道交通施策総合指針」に基づき、庁内関係部局と情報共有を図りながら連携した取組を実施。
2(6)A	都市住民との交流促進により農村の地域活性化を図り、グリーン・ツーリズム(滞在型余暇活動)を推進するため、「北海道グリーン・ツーリズム推進庁内連絡会議」を設置。道におけるグリーン・ツーリズム推進施策の円滑な実施に資するため、庁内各部や他地域との連携、様々な主体との協力により、四季を通じた豊富な観光資源を活用し、ゆっくりと滞在して四季それぞれの良さを堪能できる、多様な楽しみ方を提供する魅力的な観光地づくりを進める。	0605	農政部農村設計課	観光局、農政部が連携し、グリーンツーリズムに関する情報収集及びHPでの情報発信を行った。
		-	水産林務部	
2(6)A	「食と観光」を中心とした産業間連携を一層強化し、力強い経済を確立するため、「食と観光」の促進のための連携会議を設置し、「食と観光」が連携した施策を効果的に推進する。	0501	経済部食関連産業室	毎年実施している北海道観光のくにつくり行動計画の推進管理において食分野施策との連携に向け、今後のスケジュール等を情報提供。
2(6)A	住宅宿泊事業法に関連する法令等を所管する関係行政機関と連携しながら業務を推進する必要があるため、庁内関係部局や関係行政機関が参画する「民泊の適正運営確保に関する連絡会議」や庁内横断の「民泊の適正運営確保に関する庁内連絡会議」を主催するなど、住宅宿泊事業の届出に関する法令等の情報交換や、苦情・相談等に対応するための庁内連携体制を推進する。	0409	保健福祉部健康安全局食品衛生課	平成30年6月に施行された「住宅宿泊事業法」に基づき、届出受理事務及び指導監督事務を、庁内関係部局や関係行政機関と連携して実施。
		0801	建設部住宅局建設指導課	
		-	総務部危機対策局危機対策課	
		0605	農政部農村振興局農村設計課	

(2) 地域・民間との連携・協働

2-2 (2) 地域・民間との連携・協働

連携内容	連携先	取組の実績と成果
<p>本道観光の中核的推進組織として、道と一体となって、民間組織としての感覚や発想を生かしつつ、機動性と専門性を発揮し、北海道観光の振興に向けた各種施策を積極的に展開している。</p>	<p>(公社)北海道観光振興機構</p>	<p>北海道観光振興機構と協同して受入体制整備や誘客推進等に向けた事業を展開。民間組織としての感覚や発想を生かすことでより効果的な事業となった。</p>
<p>札幌市と共同で、札幌駅西コンコースにおいて「北海道さっぽろ「食と観光」情報館」を、東京・有楽町において「どさんこ旅サロン」を設置し、旅行相談や観光情報の提供を行っている。</p>	<p>札幌市</p>	<p>札幌市と共同で、札幌駅西コンコースの「北海道さっぽろ「食と観光」の情報館」内にある「北海道さっぽろ観光案内所」を運営し、来道観光客の相談対応を行った。(案内所利用者数:1,636,847名(平成30年度実績)) 同じく、東京・有楽町において「どさんこ旅サロン」を設置し、旅行相談や観光情報の提供を行っている(利用者数:9,042人(平成29年度実績))</p>

# 令和元年度 基本評価調書

施策名	滞在交流型観光地づくりの推進	施策コード	05 - 04
-----	----------------	-------	---------

## Plan (目標管理型行政運営システム実施要領 別紙様式1) Do & Check 施策評価

### 3 成果指標の設定 (H:平成 R:令和、大文字は年度、小文字は暦年) 3-2 成果指標の達成度合

主① 指標名	目標の基準		今年度の目標		最終目標		達成度合	B	評価年度	H27	達成度合の分析 ほか
	基準年度	H22	年度	R1	最終年度	R7					
観光消費額(道内客1人当たり)	基準年度	H22	年度	R1	最終年度	R7	達成度合	B	評価年度	H27	計画中間年の目標は設定していません。実績値を算出する「北海道観光産業経済効果調査」は、概ね5年毎に実施しているため、最新の調査結果であるH27の数値に対する達成度合の目安として按分計算による目標値を設定。 ・前回調査と比べ、道内旅行分は伸びた一方、道民の道外旅行、海外旅行の道内支出分が減少し全体を押下げた。
	基準値	13,271	目標値	14,309	最終目標値	15,000	年度	H27	R1	進捗率	
〔指標の説明〕 道内、国内、海外からの観光客が道内での観光1回に消費した平均額(1人当たり)	根拠計画		政策体系	増減方向	達成率の算式		目標値	13847	-	15000	計画中間年の目標は設定していません。実績値を算出する「北海道観光産業経済効果調査」は、概ね5年毎に実施しているため、最新の調査結果であるH27の数値に対する達成度合の目安として按分計算による目標値を設定。 ・目標達成に向け順調に推移していると考えられる。
	北海道総合計画		2(6)A	増加	(実績値/目標値)×100		実績値	12865	-	12865	
							達成率	92.9%	-	85.8%	
主② 指標名	目標の基準		今年度の目標		最終目標		達成度合	A	評価年度	H27	達成度合の分析 ほか
	基準年度	H22	年度	R1	最終年度	R7					
観光消費額(道外客1人当たり)	基準年度	H22	年度	R1	最終年度	R7	達成度合	A	評価年度	H27	計画中間年の目標は設定していません。実績値を算出する「北海道観光産業経済効果調査」は、概ね5年毎に実施しているため、最新の調査結果であるH27の数値に対する達成度合の目安として按分計算による目標値を設定。 ・目標達成に向け順調に推移していると考えられる。
	基準値	69,670	目標値	75,268	最終目標値	79,000	年度	H27	R1	進捗率	
〔指標の説明〕 道内、国内、海外からの観光客が道内での観光1回に消費した平均額(1人当たり)	根拠計画		政策体系	増減方向	達成率の算式		目標値	72780	-	79000	計画中間年の目標は設定していません。実績値を算出する「北海道観光産業経済効果調査」は、概ね5年毎に実施しているため、最新の調査結果であるH27の数値に対する達成度合の目安として按分計算による目標値を設定。 ・目標達成に向け順調に推移していると考えられる。
	北海道総合計画		2(6)A	増加	(実績値/目標値)×100		実績値	73132	-	73132	
							達成率	100.5%	-	92.6%	
主③ 指標名	目標の基準		今年度の目標		最終目標		達成度合	A	評価年度	H27	達成度合の分析 ほか
	基準年度	H22	年度	R1	最終年度	R7					
観光消費額(外国人1人当たり)	基準年度	H22	年度	R1	最終年度	R7	達成度合	A	評価年度	H27	計画中間年の目標は設定していません。実績値を算出する「北海道観光産業経済効果調査」は、概ね5年毎に実施しているため、最新の調査結果であるH27の数値に対する達成度合の目安として按分計算による目標値を設定。 ・目標達成に向け順調に推移していると考えられる。
	基準値	122,128	目標値	174,251	最終目標値	209,000	年度	H27	R1	進捗率	
〔指標の説明〕 道内、国内、海外からの観光客が道内での観光1回に消費した平均額(1人当たり)	根拠計画		政策体系	増減方向	達成率の算式		目標値	151085	-	209,000	計画中間年の目標は設定していません。実績値を算出する「北海道観光産業経済効果調査」は、概ね5年毎に実施しているため、最新の調査結果であるH27の数値に対する達成度合の目安として按分計算による目標値を設定。 ・目標達成に向け順調に推移していると考えられる。
	北海道総合計画		2(6)A	増加	(実績値/目標値)×100		実績値	178102	-	178,102	
							達成率	117.9%	-	85.2%	

関① 指標名	目標の基準		今年度の目標		最終目標		達成度合	C	評価年度	H30	達成度合の分析 ほか
	基準年度	H25	年度	R1	最終年度	R2					
宿泊延べ数(万人泊)	基準年度	H25	年度	R1	最終年度	R2	年度	H30	R1	進捗率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画中間年の目標は設定していないことから最新のH30の数値に対する達成度合の目安として按分計算による目標値を設定。</li> <li>・宿泊客延べ数は、前年度比+1.5%、+58万人泊となったが、新たな行動計画の策定による宿泊延べ数の目標再設定(+700万人泊)により、達成率は88.4%となった。</li> </ul>
	基準値	3,215	目標値	4,488	最終目標値	4,700	目標値	4276	4,488	4700	
〔指標の説明〕 宿泊客の延べ人数(国内及び外国人)	根拠計画		政策体系	増減方向	達成率の算式		実績値	3781	-	3781	
	北海道創生総合戦略		2(6)A	増加	(実績値/目標値)×100		達成率	88.4%	-	80.4%	

● 本施策に成果指標を設定できない理由	● 達成度合について					
	達成度合	A	B	C	D	-
	直近の成果指標の達成率	100%以上	90%以上 100%未満	80%以上 90%未満	80%未満	算定不可



令和元年度 基本評価調書

施策名	滞在交流型観光地づくりの推進	施策コード	05	—	04
-----	----------------	-------	----	---	----

Plan (目標管理型行政運営システム実施要領別紙様式1)

4 事務事業の設定

整理番号	政策体系	事務事業名	事務事業概要	課・局 室名	前年度からの繰越事業費(千円)	令和元年度					フルコスト(千円)
						事業費(千円)	うち一般財源	執行体制			
								本庁	出先機関	人工計	
0301	2(6)A	日本版DMO形成促進事業	「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役となる「日本版DMO」について、道内における形成を促進する。	観光局		10,000	5,000	0.3	0.0	0.3	12,391
0302	2(6)A	アドベンチャートラベルワールドサミット誘致促進費	アドベンチャートラベルの振興を図るため、「アドベンチャートラベルワールドサミット2021」誘致に向けた取組を実施。	観光局		6,205	6,205	0.4	0.0	0.4	9,393
0303	2(6)A	民族共生象徴空間誘客促進・地域連携事業	2020東京オリパラ大会にあわせた民族共生象徴空間(愛称:ウポポイ)の一般公開に向け、道内外の気運醸成を図るとともに、インバウンドなど国内外からの誘客促進を図る。	観光局		72,522	36,261	0.3	0.0	0.3	74,913
0304	2(6)A	地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業	地域の観光協会等が実施する新たな商品づくり等の取組を支援し、地域経済の活性化を図る。	観光局		181,387	181,387	0.3	0.0	0.3	183,778
0305	2(6)A	体験型観光受入整備・ブランド向上事業	道内外に向けた体験型観光の情報発信等を行い、道内への誘客促進を図る。	観光局		12,285	12,285	0.3	0.0	0.3	14,676
0306	2(6)A	アウトドア活動振興環境整備事業費	アウトドア活動の振興を図るため、北海道アウトドア資格制度の運営を通じ、アウトドアガイド・事業者のほか、より多くの道民が参加し、アウトドア活動を支える基盤づくりを推進する。	観光局		389	249	0.3	0.0	0.3	2,780
0307	2(6)A	観光客夜間消費拡大促進事業	来道観光客の夜間消費の拡大を図るため、外国人向けの意識調査や普及セミナー等を開催	観光局		4,044	2,022	0.3	0.0	0.3	6,435
0308	2(6)A	インバウンド対応ビジネスモデル形成事業	インバウンド向け滞在モデルプランの策定・検証を通じた「稼ぐ観光」のビジネスモデル確立を支援。	観光局		88,230	44,115	0.3	0.0	0.3	90,621

0309	2(6)A	広域観光周遊促進事業	外国人観光客をターゲットに、観光地を周遊するための二次交通の利便性の向上をし、魅力ある観光地づくりを進め、地域偏在の解消を図る。	観光局		131,893	131,893	0.8	0.0	0.8	138,269
0310	2(6)A	国際観光新商品開発・販売促進事業	インバウンドの誘客と長期滞在化を図るため、旅行会社の商品開発・販売を促進。	観光局		18,600	18,600	0.3	0.0	0.3	20,991
0311	2(6)A	サイクルツーリズム推進事業費	サイクルツーリズムを推進するため、輸送方法の検証や周遊拠点の整備支援等を実施。	観光局		19,384	9,692	0.4	0.0	0.4	22,572
0312	2(6)A	ふれあい民泊推進事業	自然や食などの魅力を組み合わせたふれあい民泊に取り組み、滞在型観光を推進。	観光局		2,298	1,194	2.0	0.0	2.0	18,238
0313	2(6)A	DMOの活動推進に向けたマーケティング強化事業	北海道観光振興機構のマーケティング力強化を図るため、ホームページのデータ分析等を実施。	観光局		51,179	25,590	0.3	0.0	0.3	53,570
0314	2(6)A	北海道観光誘致推進事業(受入体制整備)	観光事業者等に対するホスピタリティ啓発事業に対する助成や、地域が行う受入体制整備等の観光振興推進事業に対する助成など	観光局		49,584	49,584	0.3	0.0	0.3	51,975
0315	2(6)A	北海道さっぽろ「食と観光」情報館運営費	北海道が高い競争力を持つ「食」と「観光」の分野において、その魅力をアピールする総合情報拠点として札幌市との連携により整備した「食と観光」情報館の運営経費	観光局		37,488	23,823	0.3	0.0	0.3	39,879
0316	2(6)A	新千歳空港国際観光案内所運営事業	新千歳空港国際線ターミナルビル内に国際観光案内所を設置し、外国人旅行者に道内観光情報を提供。	観光局		19,484	19,484	0.3	0.0	0.3	21,875
0317	2(6)A	ユニバーサルツーリズム推進事業費	旅行者のニーズの多様化に対応するため、誰もが安全・安心に道内旅行を楽しめる環境を整備。	観光局		14,415	14,415	0.3	0.0	0.3	16,806
0318	2(6)A	住宅宿泊事業法関連事業費	民泊を活用した誘客拡大と民泊による近隣住民トラブルの解消を目的に公布された「住宅宿泊事業法」を適正に執行するための経費。	観光局		18,991	18,991	4.2	3.0	7.2	76,375
0319	2(6)A	観光統計調査事業	観光入込客数調査等の観光統計調査の取りまとめ、調査結果の公表	観光局		6,725	6,725	1.0	0.0	1.0	14,695

0320	2(6)A	観光人材マッチング支援事業費	北海道の観光産業の振興を図るため、人手不足が課題となっている観光産業の人材確保を図る。	観光局		33,702	6,741	0.4	0.0	0.4	36,890
0321	2(6)A	アドベンチャートラベル受入推進費	アドベンチャートラベル(AT)の受入を推進するため、ガイド育成カリキュラムの策定等を実施。	観光局		10,267	10,267	0.5	0.0	0.5	14,252
0322	2(6)A	観光人材育成事業	本道観光関連事業者の従業員等の人材育成を図ることで、インバウンドの受入体制を整備。	観光局		37,988	18,994	0.3	0.0	0.3	40,379
0323	2(6)A	外国人観光客の受入体制整備に関する事務	急増する外国人観光客に対応するため、受入体制の整備を図る。(Wi-Fi、キャッシュレス、医療、レンタカー、災害時対応等)	観光局		0	0	0.3	0.0	0.3	2,391
0324	2(6)A	地域イベントに関する事務	地域イベントに係る後援名義依頼、役員就任、行事への出席、キャンペーン支援	観光局		0	0	0.4	0.0	0.4	3,188
0325	2(6)A	赤れんが情報コーナーの管理に関する事務	赤れんが庁舎を訪れる観光客に対して、情報コーナーにおいてパンフレット等により北海道観光をPRする。	観光局		0	0	0.2	0.0	0.2	1,594
0326	2(6)A	その他内部管理事務	予算決算、文書管理、議会对応、職員の人事・服務・給与・福利厚生、物品管理、広報広聴、陳情要望、政策評価、企画立案など、局内の内部管理に関する事務全般	観光局		0	0	5.8	0.0	5.8	46,226
0327	2(6)B	観光局総合調整業務	観光局の各事務事業が円滑に執行されるよう管理する。	観光局		0	0	3.0	0.0	3.0	23,910
計						0	827,060	643,517	23.6	3.0	26.6

令和元年度 基本評価調書

施策名

滞在交流型観光地づくりの推進

施策コード

05 - 04

Do & Check 施策評価 一次政策評価結果(各部局等による評価)

5 一次政策評価結果と翌年度に向けた対応方針等

(1)成果指標の分析

政策体系	達成度合の集計					判定	成果指標の分析
	A	B	C	D	-		
	100%以上	90%以上 100%未満	80%以上 90%未満	80%未満	算定不可		
2(6)A	2	1	1			C指標あり	<p>〈観光消費額(道内容1人当たり【B】、道外客1人あたり【A】、外国人1人あたり【A】)〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光消費額(道内容1人当たり)を除く各指標の実績値は、基準値に比べて増加しており、目標達成に向け順調に推移していると考えられる。基準値より減少した観光消費額(道内容1人当たり)を詳細に分析すると、道内旅行での道内旅行での支出は伸びた一方、道民の海外旅行、海外旅行の道内支出分が減少し全体を押し下げた。</li> </ul> <p>〈宿泊延べ数(万人泊)【C】〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宿泊客延べ数は、前年度比+1.5%、+58万人泊となったが、新たな行動計画の策定による宿泊延べ数の目標再設定(+700万人泊)により、達成率は88.4%となった。</li> </ul>
						-	
						-	
						-	
						-	
計	2	1	1	0	0	C指標あり	

(2)取組の分析

基準1 (施策の推進に当たり対応すべきもの)		対応している (○あり→対応している)	対応しているとする理由
1	計画した取組を着実に進め、かつ社会情勢や道民の要請等を踏まえた課題等に対応しているか	○	H30より第4期目となる新たな北海道観光のくにづくり行動計画に則り各種施策を展開中であり、地域や観光関係者からの要望・要請等を施策に反映するよう取り組んでいる。
基準2～4 (施策の推進に当たり取組が認められる)		取組がある (○あり→取組がある)	取組があるとする理由
2	施策の推進に当たり、国等に要望・提案を行い、実現に向けて進捗しているか	○	国が目指す世界の観光先進国化に貢献するために、北海道観光の推進の必要性を伝え、道内2つの広域観光周遊ルートの形成促進や、日本版DMOの運営体制の強化に向けた支援を要望。国の予算反映状況等、進捗が認められる。
3	道民からのニーズを的確に把握し、施策推進に役立てているか	○	施策推進の基礎となる北海道観光のくにづくり行動計画の策定にあたっては、有識者からなる観光審議会での議論、広く道民から声を聞くパブリックコメントを実施し、道民ニーズの把握に努めた他、公益社団法人北海道観光振興機構からの要望を受け、翌年度の施策立案の参考としているところ。
4	施策の推進に当たり、他の施策・部局との連携による成果を確認できるか	○	農との連携による「グリーンツーリズム」の推進や、「食と観光」のより一層の連携強化などにより、多様化する観光客ニーズに対応し、滞在交流型の観光地づくりの促進に資することから、他の部局との情報共有を図り、効果的な施策の推進に努めている。
	施策の推進に当たり、地域・民間との連携・協働による成果を確認できるか	○	地域の取組へ支援することや、地域・民間と連携しながら事業を実施するなどし、施策を推進している。
判定 (基準1が「○」で、かつ基準2～4のうち1つ以上に「○」がある→a、それ以外→b)			a

(3)総合評価と対応方針等

成果指標の分析		取組の分析	総合評価					
判定(計)		判定	概ね順調に展開					
C指標あり		a						
対応方針			関連する事務事業			関連する計画等		
対応方針番号	政策体系	内 容	方向性	事務事業整理番号	事務事業名	北海道創生総合戦略	北海道強靱化計画	知事公約
①	2(6)A	観光客の消費を地域経済の活性化に繋げるためには、地域の積極的な取組が必要であり、その取組に対する支援ニーズは、毎年度、採択件数を超える支援申請がある状況。今後も地域の取組に対して支援をしていく必要がある。	改善(指標分析)	0304	地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業			
②	2(6)A	観光客に道内で長期滞在してもらうためには、観光地を周遊するための二次交通の整備、充実を図る必要があり、今後も観光客のニーズを的確に捉えながら、観光地間を周遊する二次交通を整備する必要がある。	改善(指標分析)	0309	広域観光周遊促進事業			

前年度付加意見への対応状況(事務事業)

事務事業整理番号	事務事業名	前年度付加意見	各部局の対応(評価時点)

**Action 施策・事務事業評価**

7 評価結果の反映

(1) 一次評価結果への対応

対応方針 番号	対応	事務事業
①	<新たな取組等> 自然・文化・歴史などの観光資源の掘り起こしや磨き上げによる観光地づくりなど、地域の積極的な取組を支援することにより、観光客の消費拡大による地域経済の活性化を図る。	改善：地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業
②	<新たな取組等> 観光客の長期滞在化を促進するため、観光地を周遊するための二次交通の利便性向上を図るとともに、魅力ある観光コンテンツづくりを進めることで地域偏在を解消する。また、自然・文化・歴史などの観光資源の掘り起こしや磨き上げによる観光地づくりなど、地域の積極的な取組を支援することにより、観光客の消費拡大による地域経済の活性化を図る。	改善：広域観光周遊促進事業 改善：地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業

(2) 二次評価結果への対応(付加意見への対応状況)

(3) 事務事業への反映状況

方向性	拡充	改善	縮小	統合	廃止	終了	合計
反映結果		2					2

次年度新規事業 (予定)
5

整理番号	事務事業名	一次政策評価に おける方向性(再掲)	次年度の方向性 (反映結果)
0304	地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業	改善	改善
0309	広域観光周遊促進事業	改善	改善